

北海道特別教区修養会「えぞキリシタンの歴史に学ぶ」

2009年10月12-13日

主題聖句 「目を上げて、わたしは山々を仰ぐ。わたしの助けはどこから来るのか。
わたしの助けは来る、天地を造られた主のもとから」(詩編121:1)

第一日目(函館教会) 一日目は函館教会に集合。もてなしの準備は、整っています。



開会礼拝。共にいただく聖餐、大きな大きな讃美の声は、修養会の醍醐味のひとつですね。



「えぞキリシタンの歴史に学ぶ」…函館の増田兄、村上兄による発表。引き込まれるお話で、江戸時代のキリシタン迫害、千軒岳の106人の殉教について学びました。



夕食後には、ソバリ牧師による晩禱。スライドによって紹介された、松前藩の墓には、十字の文様やイエス様らしき像が刻まれている物があります。どれほどの覚悟で、刻まれたのか…。



一日目、解散後、礼拝堂では有志による祈祷会。
函館山に行ったグループも、めったにない好条件での夜景だったようです。

第二日目 加納牧師による朝祷の後、バスで当別トラピスト修道院へ。



トラピスト修道院の静かな聖堂で、小山昭司祭のお話と、パイプオルガンの演奏による、黙想と讃美の時間。男性のみ、修道院の内部の見学もさせていただきました。もとはこの土地は石だらけの荒地だったとのこと。開墾にあたった修道士たちの信仰もしのべれます。



その後、修道院下のカトリック当別教会（聖リタ教会）に移動。小山司祭とカトリック元町教会の上野博司兄から、えぞキリシタンについての講演を伺いました。実際にこの地で生まれ育ち、千軒岳での殉教ミサをとりおこなっておられるお二人です。キリシタン禁制からえぞ地での殉教が起こるまでの歴史、幼いころからこの殉教の出来事が身近にあったことやミサに対する思いなど、親しみやすい語り口で、お話くださいました。



昼食後、派遣礼拝。みことばの励ましをいただいて、各々の宣教の場へと出て行きましょう！

